



# なみだのわけ



lily

わたしの、はじめて読んだ西加奈子さんの作品は、今から書く「きりこについて」です。  
はじめて読み終えたときのあの、どうしようもないくらいの衝撃、  
ここに焼き付いて、今思い出しても、気分が高揚します。  
それ以来、西さんの虜なのです。

うつくしいってさ、なんなんだろうね、  
ただしいってさ、なんなのかなあ、  
人がみんな平等だなんて、だれが決めたんだろう。  
この世界は、いつの時もそんな謎で溢れかえっているけれど、  
わたしはあたまが悪いから、  
どんどん増えていく謎を考えても考えても分かりませんでした。  
これって自分の考えがない＝個性がないってことなのかなあって、  
すごく悩んだりして、  
もやもやししながら、手にとったこの本。  
それが、奇跡でした。その答えがすべて、詰まっていたのです。

きりこは、わたしと違うタイプの女の子です。  
思いこみが強くて、自我もあって、自信もある。  
わたしは、どちらかというと、  
自我がなく、自信もなく、どちらかといえば活発ではない子供でした。

それなのに、こんなにもこの本に共鳴したのは、  
きりこと、行き着いた答えが同じだったからです。

先ほども書いたけれど、  
わたしはわたしが分からなかった。  
物心ついたときから、なにがしたい、とか、なにがほしい、とか、  
なにがやりたい、誰と遊びたい、その他諸々の、「わたし」発信の感情が、  
ほとんど発達していなかったのです。  
だから、まわりに委ねて、流されて、生きていました。  
実はわたしは、その方が良いと思っていました。  
その方が、正しいと、もっと言えば崇高な行為だと思ったのです。

でも、それではいけないと、ころころのどこかで思っていたのですね、きっと。  
ころころのどこかが悲鳴をあげていたんです。  
わたしは、ここにいるんだって。

ほどなく、わたしは体調を崩しました。  
ついにどうしようもなくなり、  
なみだを流しながら、「わたしは、ひとりだ」  
そう思う日々が続きました。

何年かたち、  
まだまだもやもやしたあたまではありましたが、  
本を読もう、と思い始めたのです。  
だいすきな芸人さんが、西加奈子さんが好きだって、  
言っていたので、その棚からそっと手にとったのが、  
「きりこについて」でした。

”「今まで、うちが経験してきたうちの人生すべてで、うち、なんやな！」  
ぶすの、きりこ。  
きりこの、すべてが、きりこ、なのだ！”

このフレーズに、わたしは言葉では表せないくらいの、  
激しく狂おしい、それでいてあたたかい、  
今までのわたしの人生が、もうごちゃまぜになってどどどっと押し寄せてきて  
同時に、これからの人生がすぱっとひらけて、いく感覚に陥りました。  
わあーと、大きな声をあげて泣きました。  
今までなにやってたんだ、わたし。

その通りだ。

わたしは、わたしのことが分からないと、嘆いてばかりいたけれど、  
そんなの、関係なかった。  
わたしは、まずそんなわたしを受け入れなければ、ならなかったんだ。  
何もかも、そこから始まるんだって、  
気付いた瞬間、なみだが、とめどなく溢れて溢れて止まりませんでした。

わたしは、少し不安になると、すぐにこの本を開きます。  
なにがあっても、どんな時も、  
わたしはわたしを受け入れていこうと思います。  
そして愛していこうと思います。  
強く生きていこうと思います。